

令和3年度 学校だより 7月号 6月30日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 石田 薫

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子



見ること

校長 石田 薫

短夜の候、保護者の皆様、地域の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

先月の運動会は、今年度も団体競技を行わず半日開催となりましたが、熱い応援をありがとうございました。また、2日間に分散した授業参観へのご出席もありがとうございました。

6月25日は2年生の音楽集会を行いました。感染症終息の見通しがつくまでは、体育館での全校児童の集合は見合わせております。今年度は、空間を広く取りながら該当学年の保護者に見ていただくことにいたしました。例年ですと、鑑賞した子ども達から『アンコール』の聲が上がり、それに応えて演奏している子ども達が張り切ってアンコールに応じるという光景を目にしました。まさか保護者の皆様から『アンコール』の聲が上がるとは思っていませんでした。1年間途切れてしまった音楽集会で、今年度も他学年の子ども達が直に鑑賞することは出来ません。しかし、保護者の皆様が子ども達へ称賛を『アンコール』で伝えてくださり、再び全校で音楽集会を開催できる時には、子ども達同士でもこの称賛の形が繋がっていくことと思います。子ども達への熱く温かい応援に感謝申し上げます。

保護者の皆様の応援は、子ども達の何よりの力となります。

『ホーソン効果』という心理効果があります。人に見られていると頑張るという心理現象で、注目されたり、関心をもたれたりすると期待に応えようとモチベーションをあげ、頑張ることにより好結果がもたらされると言われます。主体的な活動によって頑張る姿勢は、大きく成長させる要因となります。

ネイティブアメリカンには、子どもが自立するための親の心得「子育て四訓」が古くから伝えられているそうです。

『少年は手を離せ、目を離すな』

小学生の時期、仲の良い友達ができ、子どもだけの世界が始まります。トラブルも起きます。トラブルになっても自分たちで解決しようとするのがこの時期ですが、手を掴み過ぎてしまうと、過干渉になり自立心が育たず、大人が解決してくれるだろうと考えるようになります。しかし、少年期はまだ子供です。やることも考えることもまだ幼いものですから、手は離しても目だけは離さず、子どもの様子をしっかり見て、フォローが必要な時には、すかさず支援したいものです。

子どもの世界を尊重しつつ、程よい距離感を保つことが大切で、私たち教員にとっても参考になる心得です。

いずれにしても、この時期、周りの大人が子ども達をしっかり見ることがより豊かな成長につながっていきます。

今月もご協力をよろしくお願いします。

